

社説

論はひとつではなく、討議の行方に熱い視線が注がれた。

の再生▽滞在型に即した業態への旅館や店舗、観光施設の転換の三点を挙げた。

泉観光の新しいカードとして活性化策を考えてみたい(吉田秀光・三朝町長)と前向きな発言が相次いだ。

ラジウム含有量世界一を誇る鳥取県中部の三朝温泉で「温泉を活用した医療と地域連携」をテーマにしたフォーラムが開かれた。全国から温泉観光、医療の専門家が集まり、三朝温泉が個性を發揮しながら、どのようにして活性化を実現するかを討議。貴重な意見や助言が相次いだ。地元としてフォーラムの成果をしっかりと受け止め、十二分に生かしていきたい。

づくりに移行。特に注目されるのは「元気な高齢者の健康づくり、保養の場」としての温泉の活用と、本格的な保養温泉地づくりの取り組み。日本には「湯治」という風習が古

くからあり、スローライフが叫ばれる今日、温泉が本来持つその機能を再評価し、これからのライフステージに取り入れてもらおうとの試みが各地で始まっているという。

性を生かせ、ということであった。日本交通公社調査部研究主幹の大野正人氏は「三朝温泉は他の温泉地にはない資源を有していることから、保養・療養型の滞在温泉地を目指すべきだ」と提言。魅力再生の方策として▽温泉と医療による療養・保養プログラムの開発▽快適な滞在活動のベースとなる「魅力ある街並み」

フォーラムは、参加者からも「東京で開催して、全国発信すべき内容であった」と評価する意見が出たほど濃い中身であった。三朝温泉は他にない特性・個性を持ちながら、認識が低く、温泉病院と温泉旅館の連携が十分でない。近隣の岡山県・湯原温泉では旅館組合と真庭市立温泉病院がタッグを組み「人間ドック付き宿泊プラン」を開発し、好評を得ている。三朝温泉としても、具体的に動き始めるのが急務だろう。

三朝温泉を「温泉・療養の里」に

温泉と医療の特性生かせ

観光の新しいカードにこれらを受けた形で、地元からは「近くに三徳山、国宝投入堂もあり、文化も楽しめる温泉保養リゾートが可能」(御船秀・三朝温泉旅館協同組合理事)「入院患者は三十

泉に元気がないと中部全体の士気が上がらない。官民挙げて三朝温泉を「温泉・療養の里」に転換し、にぎわいを取り戻そう。

三朝温泉は県中部の梨の花温泉郷の中核である。三朝温泉に元気がないと中部全体の士気が上がらない。官民挙げて三朝温泉を「温泉・療養の里」に転換し、にぎわいを取り戻そう。

七都道府県に及ぶ。地域と連携し、さらに期待に込めたい(光延文裕・岡大三朝医療センター長)「ポテンシャルの高さがよくわかった。三朝温

り戻そう。

利用者の減少に苦しみ、経営危機にある旅館やホテルも多い。県外参加者にとっても三朝温泉の活性化策を探る議

いま、全国の温泉地は宿泊

すべきた」と提言。魅力再生

七都道府県に及ぶ。地域と連携し、さらに期待に込めたい

り戻そう。

合田純人・NPO法人健康と温泉フォーラム常任理事によると、最近の温泉利用の形態が観光・歓楽型から保養・健康

利用者の減少に苦しみ、経営危機にある旅館やホテルも多い。県外参加者にとっても三朝温泉の活性化策を探る議

いま、全国の温泉地は宿泊

すべきた」と提言。魅力再生

七都道府県に及ぶ。地域と連携し、さらに期待に込めたい